ワカモノ ヨソモノ カブキモノ

WAKAMONO YOSOMONO KABUKIMONO

住道駅周辺エリア未来ビジョン

住道駅周辺エリア未来ビジョン

Future Vision for the Suminodo Station Area

INDEX

03　はじめに　〜ワカモノ ヨソモノ カブキモノ〜

05　大東 住道の見立て

07　大東 住道の課題

09　住道のポテンシャル

11　リノベーションまちづくりとは

13　大東 住道のビジョン

19　イロモノプロジェクト 〜すでにこんなことを考えています！〜

21　推進のための体制づくり

23　ロードマップ

25　インタビュー　〜大東を牽引するワカモノ ヨソモノ カブキモノ〜

33　ビジョンづくりの背景

35　住道みらいデザイン会議レポート

37　委員からのコメント

1956 — 2026

ワカモノ
ヨソモノ
カブキモノ
から はじめよう。

※「ワカモノ ヨソモノ カブキモノ」とは、若者（ワカモノ）、まだ関わりがなく外からの視点を持つ人（ヨソモノ）、
そして常識にとらわれず動く人（カブキモノ）のこと。立場や肩書きを越えて、それぞれの個性と発想を活かしながら、
新しいまちの動きをつくる存在を指します。

ワカモノ ヨソモノ カブキモノ

世界にひとつだけの「絵の具」で未来の景色を描こう！

人は誰もが自分色の絵の具を持っています。
それは世界にたったひとつしかない色。

あなたは世界にひとつだけの絵の具で絵を描いていますか？
才能がないから、経験がないから、評価されるのが怖いから。
そんな理由で絵の具の蓋を閉じたままにしていませんか？

勇気を持ってキャンバスに向かってみてください。
そして絵の具のチューブをしぼって、絵を描いてみてください。
上手いか下手かなんてどうでもいいのです。
大切なのはあなたの色がそこに「在る」こと。
絵の具を取り出し、チューブをしぼり、手を動かした瞬間、
そのキャンバスは他にはないあなただけの色に染まります。

さらにそのキャンバスに隣のあなたも絵を描けば、
あなた一人では表現することが出来なかった新しい色が生まれます。
異なる色が重なり合い、混ざり合い、にじみ合うことで、
そこにしか生まれることのない新しい価値が見出されていくのです。

あなた達の絵の具の色には意味があります。
どうか世界にひとつだけの絵の具を使い切ってください。
キャンバスはあなた達の色が加わることで、
多様で個性のある「魅力的な絵」に変わるのです。

私達はあなた達にとって最高のキャンバスを用意します。
必要なら丸筆や平筆、刷毛、ペイントナイフだって用意します。
そう、あなた達はただ「自分色の絵の具」を使うだけで良いんです。

さあ、怖がらずに、住道というデッカいキャンバスに
あなただけの絵の具で絵を描きましょう！
その行動がきっと、誰も見たことのない「未来の景色」を描くことに繋がるから。

住道駅周辺エリアプラットフォーム
委員一同

歴史的文脈から見出す

大東 住道の見立て

Daito / Suminodo Reading

8-9世紀

高野参詣道のため
「東高野街道」
の原型ができる



信仰と娯楽を求め人が集まる地に

○ **18世紀**

古堤街道が「野崎まいり」の参詣道としても賑わい、**住道**周辺はその途中の**宿場・休憩地・飲食地として発展**

住道は昔から
たくさんの人や情報が
集まっていたまち

その後も続々と交通網が整備

1953	国道163号制定
1963	国道170号制定
1960-70s	府道拡張・市道整備
1970-1997	阪神高速13号線開通
1990-2010	第二京阪道路整備・開通

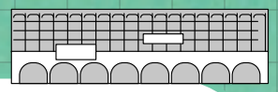
○ **1945年以降**

池や用水が埋め立てられ、
工場・住宅用地へ転換。
水運は消滅し、代わりに国道・府道・鉄道が物流の主軸に

大正〜昭和初期 農村から都市型産業へと変化

交通利便性は高いのに土地が安い！で選ばれてきたまち

大阪都心部からの工場移転先として大東が注目され**「ものづくり」のまち**へ



1895年

JR片町線
住道駅開設

駅前に商家・旅館・飲食店・芝居小屋・呉服店などが集まった



跡地利用による住宅化・商業化も進展

急速な生活インフラの整備

1873年

深野郷学校が設立

明治政府の「学制頒布」の翌年、河内地域で最も早く設立された私立小学校のひとつ

時代に先駆けた
挑戦をしてきたまち

度重なる大和川の氾濫

村々では堤防や樋門の管理を「入会組合」で行い、地域で協力して治水を行う文化が形成

外の人とも協力して
水害からまちを守った！
高い自治力をもつまち

○ **1704年**

大和川の付け替え

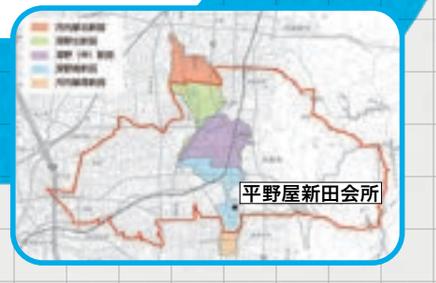
東本願寺難波御堂主導でたくさんの地元住民と移住してきた開拓民が協力して実現

稲作を中心とする農村地帯に変化



1730-1750年代

深野池・新開池の
干拓＆新田造成



その後も度重なる水害

○ **1972年**

集中豪雨で、住道駅一帯が床上浸水。この被害を契機に、寝屋川沿いの高い護岸壁が建設

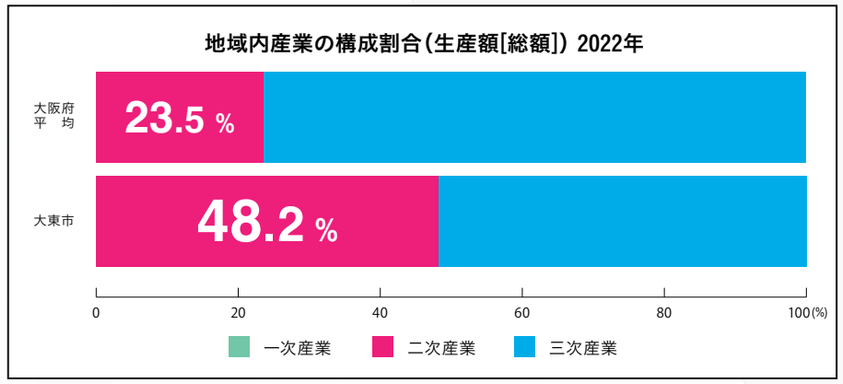
高い地域自治力で時代に先駆けた挑戦をしてきた大東。その中でも住道は交通利便性がよく昔からたくさんの人と情報が集まっていた

まさに変革期を迎えている?!

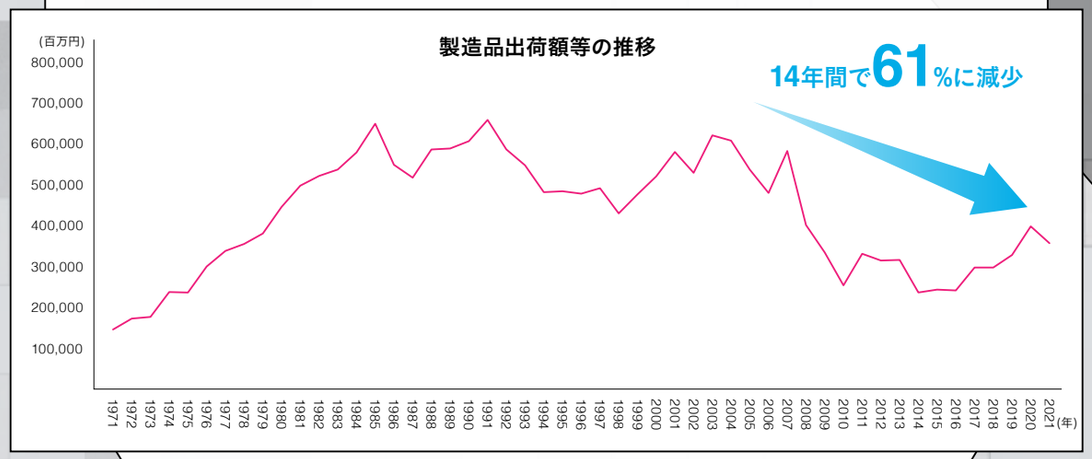
大東 住道の課題

Daito / Suminodo Issue

ものづくりのまちとして発展してきたけれど
産業自体が勢いを失いつつある



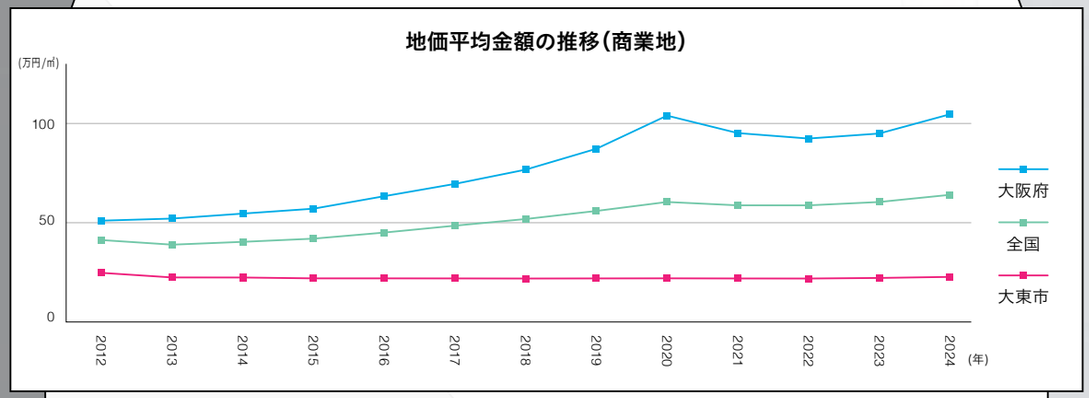
主幹産業は二次産業「ものづくり」のまち



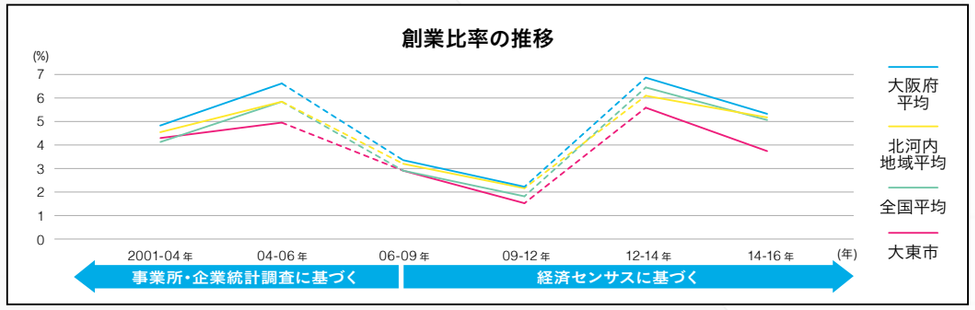
二次産業「ものづくり」の出荷額が減少傾向

主幹産業の勢いが失われると大東市の財政も
その分逼迫され未来への投資がしづらくなる可能性も

商業地の家賃相場は比較的安価?
出店ハードルは低そうだけれど
創業比率は全国平均を下回る



商業地の家賃は低い水準で推移



大東市の創業比率は4%未満

大東での新たな挑戦が減り、身の回りの
魅力的な新しいお店がどんどん少なくなる・・・

高い地域自治力で
時代に先駆けた挑戦をしてきた大東
その中でも住道は交通利便性がよく
昔からたくさんの人と情報が集まっていた

**このままだと
大東・住道の強みが
活かされない状態に!**

住道のポテンシャル

活かさないと勿体無い！

The Potential of Suminodo

人が集まる！住道駅周辺

市役所等の公共施設が集中

乗降客数の多い住道駅

“わざわざ”人が集まる

住道には塾が集まる

地域の自治力があ る！

区長制度

よそ者が入りやすい

住道の自治力が強い！

長く住んでる人が多い

意外と自然豊かな住道

意外と自然が近い！

寝屋川！

朝日（山）と夕陽（川）が両方楽しめる！

飯盛山から昇り寝屋川の向こうに沈んでいく太陽がエモい

音楽といえば、住道

まちなかで昼間にカラオケの声が聞こえる

歌って元気な人が多い？

スナックが多い

音楽を習うなら住道に来る

売れるポテンシャルがあるエリア

住道は色んなバックグラウンドを持つ人がいるから新しいマーケットがある

一軒で帰らないはしご酒スタイル

とはいえ大東の中では住道は大手資本も多い

最高のリラクゼーションは住道ごはんとお酒

住道は、買い物というよりもオモロい個店にいくイメージ

常連だけでも成り立つ

大東市のA面！発信の場

住道が面白いことを始めたら他のエリアも負けんとこと動き出す

東西の強い個性に挟まれたキャンバス的存在の住道

まだまだ使えるのに勿体無い？！

駅前デッキや末広公園

応援団の制度があり、公共空間が使いやすい

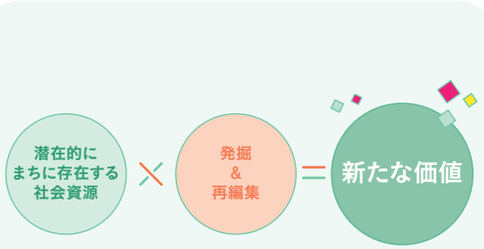
住道のポテンシャルを住道みらいデザイン会議の中で出し合いました

リノベーション まちづくり とは

いま、まちに眠る価値を
ひらくということ

リノベーションまちづくり とは、
まちの潜在資源を活用して、都市・地域の経営課題を解決する まちづくりの手法の1つです。

今まで価値を見出していなかったような、まちの資源を再発見・再解釈し、再編集していきます。新しいものをゼロからつくるのではなく、空家など今あるまちの資源を上手く使いながら、小さなチャレンジを同時多発的に生み出すことが、まちに変化を生みます。こうした民間主導の取り組みを地道に継続していくことでエリアの価値が上がり、エリアの再生につながります。



POINT!

「点」と「面」で考えるリノベーションまちづくり

リノベーションまちづくりは「点」と「面」の考え方が大切です。一つの遊休ストックを活用した「点」のプロジェクトが生まれ、周囲のスモールエリア内で連鎖するように次のプロジェクトが生まれていくことで、点が「面」となりエリアが活性化していきます。さらにまち全体から見たとき、そのエリアが一つの点となり、他の地域においても新たな取り組みが波及しリノベーションまちづくりという考え方で繋がっていくことで、まち全体が面的に再生します。



※スモールエリア・・・生活者が身体的に認識できる、およそ半径200〜300mのエリア

リノベーションまちづくりを必要とする社会背景

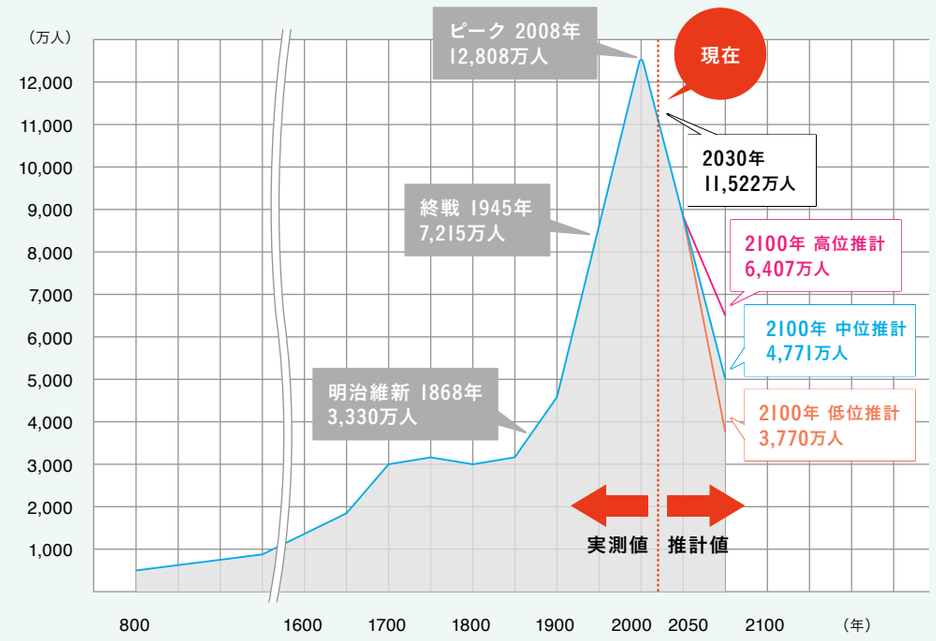
高度成長期には、生産年齢人口が増加し、右肩上がりに税収も増加していました。
ところが、2008年をピークに人口減少に転じて以降、生産年齢人口が減少し、高齢人口の割合が増加する超高齢化社会が到来しています。
税収が減り続ける一方、医療・福祉・年金等の社会保障給付費は増大しています。
全国に自主財源で義務的経費を賄えない自治体が続出するだけでなく、空家の増加、地場産業や中心市街地の衰退など、様々な地域課題を抱えています。

成長時代の日本でうまくいっていた手法が適用しにくくなっているのが、今の日本の現状です。

POPULATION
SHIFT

日本の人口の長期的推移

2008年の人口ピークを迎えたのち100年間で100年前の人口水準に戻る急激な変化が起こっています。



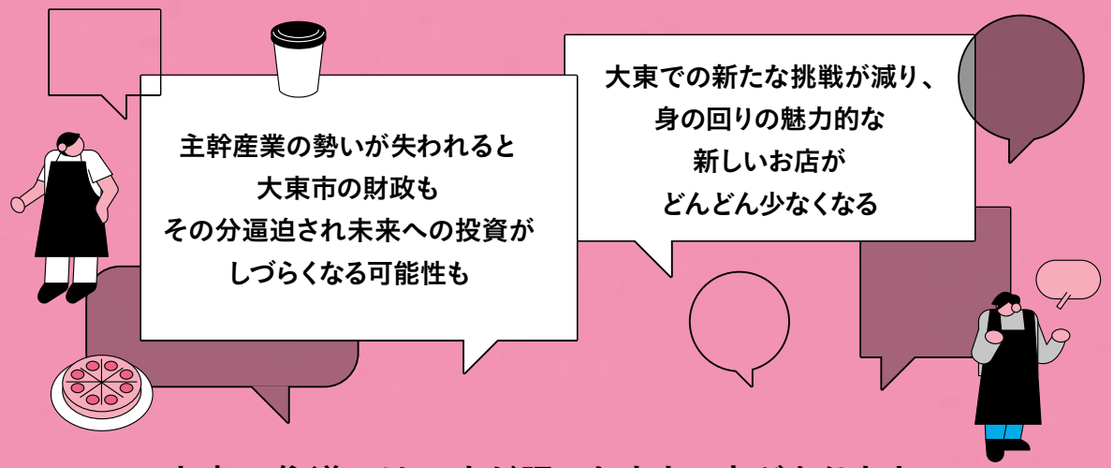
出典：国土交通省HP

ワカモノ
ヨソモノ
カブキモノ

民間主導で動いていこう！

大東 住道のビジョン

Daito / Suminodo Vision



大東・住道には、まだ眠ったままの力があります。
それをまちなかのチャレンジとして引き出し、
地域が自ら動かす“持続するまち”へ。
働くことが地域を育て、豊かな地域が暮らしを支える。

そんな循環するまち 大東・住道をめざします。





このビジョンに込めた思いを教えてください。

辻村　最初の一歩を踏み出すのって怖い。でもその一歩を支える土壌をつくることはできると思うんです。大東はポテンシャルの塊。ただ、やる人・つなげる人が少ないからこそ、ビジョンを掲げて流れをつくりたいです。これからも丁寧に伝えていきたいと思っています。

上之山　4人とも「ワカモノ ヨソモノ カブキモノ」的な存在ですよね。住道は人が集まりやすく、子育てや仕事とも地続きで関われるエリアだと思います。

耶雲　「よそ者扱い」されることもありますが、外からの関わりを受け入れなければ、まちは変わらない。だからこそ、閉じないまちをめざしたいです。

安見　一度きりのイベントよりも、日々関われるフックを増やしたいです。関わる人が増えれば、まちは自然と動き出すはず。

これからのチャレンジは？

辻村　クラフトビールを軸に一次〜三次産業をつなげるプロジェクトを進めたい。モノを売るより、人が関わる仕組みを育てたいんです。あと「大東まちなか芸術祭」で、日常にアートがある風景もつくりたいです。

上之山　住道の可能性はまだまだあります。たとえば日曜の朝、公園でチャイを飲む。そんな小さな風景がまちの魅力になります。

耶雲　教育の分野でも挑戦したい。クラフトドリンクづくりを通じて、子どもたちが「つくる・届ける・考える」を学べる場をつくりたいです。

安見　今あるコンテンツを「違う使い方」ができないかと考えています。どう巻き込み、どう関わってもらうかを大切にしたい。動いてもいいんだ、関わってもいいんだと思えるきっかけを増やしていきたいです。

「ワカモノ ヨソモノ カブキモノ」へ一言。

辻村　土壌はつくるので、気軽に種をまきに来てほしい。水や肥料の相談には、いくらでも乗ります。

上之山　楽しいことをしたいなら、大東でもできますよ、という感じですね。自分たちが特別だったわけじゃないので。

耶雲　小さな日々のいとなみが、大きな未来をつくる。そのことを感じてもらえたら。

安見　関われば、見えてきます。この指とまれ、くらいの気持ちで。昔は受け入れられなかった発想が、今では当たり前になっている。まちも、きっとそうやって変わっていくと思います。

どうやって進める？？

大東市の中でも住道は今も多くの人が集まり、
挑戦できる土壌が整っている。

そんな住道を大東のキャンバスと見立てて
イロモノプロジェクトを進めます。

まずは…

すみのどうで、するのどう？

イロモノプロジェクト

住道には互いの個性を活かし合い応援し合う、
ぬくい風土がある。その風土が未だ見ぬ挑戦を生み育て、
その背中が子どもたちの未来につながっていく。
大東の彩り鮮やかな魅力をまるごと体感できる、キャンバスとしての住道。

暮らし　商業　農　教育　自然

※イロモノプロジェクトとは…
一人ひとりの個性（イロ）を持ち寄り、分野を越えて混ざり合いながら新しい挑戦を生み出す取り組みです。

ワカモノ
ヨソモノ
カブキモノ

からはじめよう。

あなたはどの分野での
ワカモノ ヨソモノ カブキモノ
ですか？？

ワカモノ　ヨソモノ　カブキモノ

発信する人　行動する人　まず始めてみる人　支える人　楽しむ人

寛容力のある住道だからこそ、

「ワカモノ　ヨソモノ　カブキモノ」の力が発揮できます。

新しいことを始めるとき、大切なのは常識にとらわれず、

外からの視点や少し変わった発想を受け入れること。

住道にはそうした多様性を受け入れる土壌があります。

発信する人、行動する人、支える人、楽しむ人

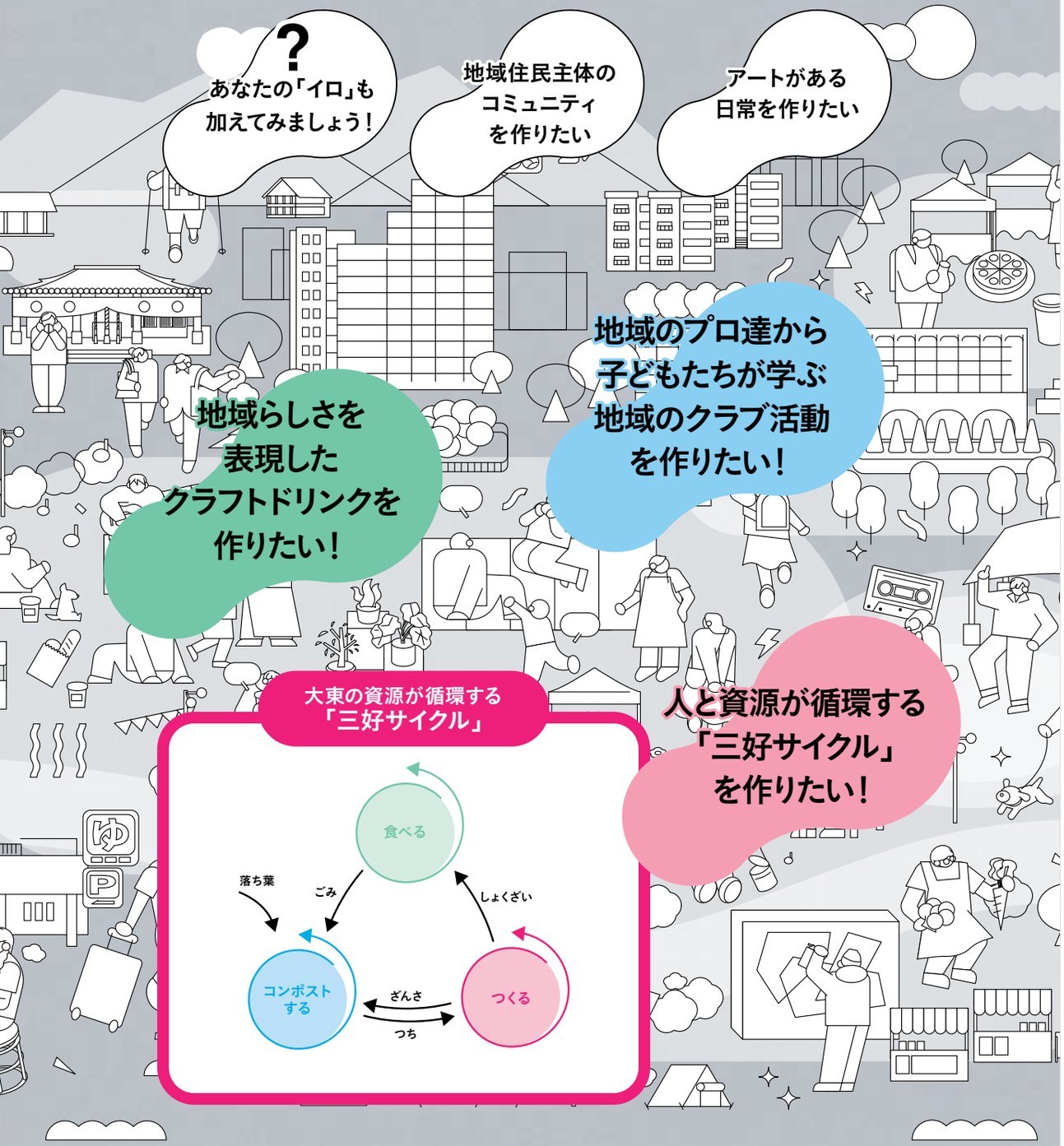
—**それぞれが自分なりの関わり方**でまちに参加できます。

誰もが少しずつ「ワカモノ ヨソモノ カブキモノ」の要素を持っているはず。

まずは**自分の得意や個性を生かして、一歩踏み出してみませんか？**

イロモノプロジェクト

すでにこんなことを考えています！



こんなふうに進めていきます



推進のための体制づくり

イロモノプロジェクトを支える仕組み

住道駅周辺エリアプラットフォームの組成

住道駅周辺エリアプラットフォームは、大東市の新たなまちづくりを推進するための現場チームとして立ち上げました。行政、事業者、市民、大学など多様な主体が関わり合いながら、分野を越えた連携によって地域の「点」を「面」に変えていくことをめざします。

住道みらいデザイン会議



本ビジョンも、住道駅周辺エリアプラットフォーム委員を中心に数々の会議や「住道みらいデザイン会議」を開催しながら取りまとめました。

住道みらいデザイン会議

住道駅周辺エリアプラットフォーム

プレイヤー委員
ビジョンの素案を作り上げ、実現に向けて動き出す

サポーター委員
ビジョンの素案をもとに議論し実現に向けてサポートする

＋

市民の皆様
ビジョンをもとに自分なりの関わり代を考えてみる

住道駅周辺エリアプラットフォームのめざす形（案）



少しでも共感を覚え、何かやりたくなった、
関わりたくなった ワカモノ ヨソモノ カブキモノ なあなた。
ぜひ住道駅周辺エリアプラットフォーム事務局までご連絡ください！

仲間の輪を広げてよりたくさんのイロモノプロジェクトを実現しましょう！
自分たちの手で未来の景色を描きましょう！

住道駅周辺エリアプラットフォーム事務局
大東市都市経営部都市政策課　072-870-0483（直通）/juto@city.daito.lg.jp

ロードマップ

	現在	短期 1-2年	中期 3-5年	長期 6-10年
	プロジェクト始動	新たなプロジェクトを引き出す土壌をつくる	チャレンジが広がる新しい投資が起こる環境を作る	投資がさらなるチャレンジを生み出す好循環を作る
行政	● 規制緩和 ● サポート ● 機会提供	● 公共空間利用の普及・啓発・提供（応援団等） ● 駅前デッキ再整備計画と連動した社会実験	● 末広公園・駅前デッキ等を含む公共空間の面的利用を推進 ● 駅前デッキ再整備と合わせて公共空間の規制緩和・運用改善（広場条例等）	● 住道モデルを大東全域へ展開 ● プロジェクトを通したシティブランディングを展開
住道駅周辺エリアプラットフォーム	● 住道駅周辺エリア未来ビジョン策定	● 住道駅周辺エリアプラットフォーム委員の拡充・ビジョンの共有 ● 「すみのどう会議」など定例対話会を開催 ● 活動の言語化・発信	● 公共空間の活用ルールのあり方を民間から提言 ● 地域のイロモノプロジェクトのコーディネート・助成制度を運用（D-Bizとの連携検討）	● 収益構造を確立し自走型体制へ（都市再生推進法人化等） ● 地域循環を生むファイナンスの仕組みを検討
市民	● イロモノプロジェクトの推進	● 住道駅周辺エリアプラットフォームの委員を中心にプロジェクトを始動 ● 公共空間を利用したスモールスタート（社会実験等）	● プロジェクト同士もしくは企業同士の連動・連携を積極的に行う	● プロジェクトの集合体が大東市の新しい産業を創出
目標		住道駅周辺エリアプラットフォーム委員 30人超	イロモノプロジェクト 5件超	イロモノプロジェクト 30件超

循環するまち 大東・住道

各分野ですでにたくさんいる！

大東を牽引する

ワカモノ ヨソモノ カブキモノ

INTERVIEW



帰省した若い人がやっぱり大東ええなと思える未来を残したい

PROFILE 01

関山聡氏
Green glass

お店を始めたきっかけは？

以前も眼鏡会社で働いており、軽い気持ちで始めたのに気づけば10年以上続いていました。転職を考えた際、辞めるなら自分の理想とする眼鏡屋を作ってみたいと思い、どうせなら自分が住んでいるまちを楽しくしたいと思って、住道で店を開くことを決めました。最初に驚いたのは、商店街の店同士につながりがほとんどなかったこと。同じまちで商売しているのに、勿体ないなと。そこから、放置されていた商店街ブログを動かしたり、イベントや「まちゼミ」の立ち上げに挑戦しました。「まちゼミ」も最初は20講座やっても集客はほぼゼロ。でも負けず嫌いなので、3年半、7回続けました。市と連携するようになって、ようやくまちの空気が変わってきた感覚があります。

お店やまちへの根っこにある思いは？

僕は、個店こそがまちの価値だと思っています。チェーン店はどこにでもあるけど、個店はそのまちにしかない。歳を重ねるほど、結局大事なのはコミュニティやと感じます。ふらっと立ち寄れる場所、誰かに会える空間があるまちは豊かです。住道は、わざわざ来る場所じゃないと思われがち。でも、歩く理由や物語があれば、まちは面白くなる。最近は新しい店も増えて、声をかけたら月1回集まって掃除をするコミュニティも生まれました。老舗も若い店主もUターンの人も、まぜこぜで面白い。個店を開き、まちを巡るきっかけをつくりたい。帰省した若い人が、やっぱり大東ええなと思える未来を残したいと思っています。

面白い大人が増え、
挑戦する人が集まることで
まちはもっと元気に



PROFILE
02

大川博史氏

大川創業株式会社

お店を始めたきっかけは？

代表に先代から受け継いだのは2019年12月。東京から住道に戻った直後、年明けにコロナが来ました。とんでもないタイミングでしたが、地域の方々の拠り所として、どんな状況でもオペラパークは閉めたらあかんと思い、ここまでやってきました。

活動を始めたきっかけは？

東京や海外で見てきた素敵な風景を、このまちでも形にしたい。そう考えて最初に動いたのが、2022年に始めた「花の小径」プロジェクトでした。「花の小径」は、自転車置き場だった細長い空間を花と緑あふれる空間に変えた取り組みです。トライアル/トライアルマルシェも、まだ起業していない人が試せる場として同時期に始めました。まずはやってみる、失敗してもいい。その姿勢を大事にしています。イベントでは季節感を重視しています。「雪まつり」や「カブトムシつかみどり！」など、子どもたちの記憶に残る体験をつくりたい。私はほぼ毎日現場に立ち、子どもたちの笑顔を見るのが何よりの原動力です。

活動の信念・大事にしていることは？

住道には若者が多く、家賃も比較的安い。面白い大人が増え、挑戦する人が集まることでまちはもっと元気になる。まちは劇場のようなもの。オペラパークは、ここに来れば何かある、そしてコロナや台風の時でも機能を止めず安心して集まれる、そんな場所であり続けたいと思っています。

次世代が愛着をもってくれるような
住みよいまちを手渡したい



PROFILE
03

耶雲直美氏

一般社団法人モノクロ、黒猫堂、3PIECE

活動を始めたきっかけは？

大東での活動はグリーングラスさんの店舗前で「1時間100円で店先貸します」企画がきっかけ。ものづくり活動を通じて地元での交流が広がりデッキ周辺で仲間と手づくり市を企画運営。コロナ禍を機に末広公園の一角を借りて「モノ市」企画をひとりで始めると徐々に仲間や出店者が集まり、口コミやSNSを通じて出店者も増加。今では関西各地からも出てくれる人が増え、延べ900組程度が出店するまでに至りました。

活動の信念・大事にしていることは？

大切にしているのは「次につながる」こと。子どもの頃、大東にあまり良い印象を持っていませんでしたが、それでも山のそばで駆け回ったことや商店街で遊んでいた記憶、住道を「都会」と感じていた感覚も、確かに自分の中に残っています。自分たちが知っている大東がなくなってしまうのは悲しい。だからこそ、子どもたちに「思い出として残るまち」を手渡したいと思うようになりました。

今後に向けて

学生時代から様々な形で教育現場に関わらせてもらうなかで、行政だけでは届かない支援の限界を感じ、地域でできることを模索。諸福エリアで仲間とともに「3PIECE」を立ち上げ、子ども食堂や保護者の集える場を運営。今後はNPO法人化や子どもたちの居場所づくりをめざし、教育と地域をつなげる持続可能な仕組みをつくりたい。次世代が愛着をもってくれるような住みよいまちを手渡せるように多方面で活動を続けていきます。

日々の食や身体のことに目を向けることで、心も整っていく。その感覚を、まちの中で自然に共有できる。



PROFILE 04

上之山大輔 氏

アメツチ

大東の印象について

結婚をきっかけに住道へ来ました。住んでみて感じたのは、住みやすいまちだということ。山や川が身近にあり、日常の中で自然が目に入る。それがこのまちの個性だと思います。都心にもでやすいけれど、どこかローカルな空気もある。”トカイナカ”だと思います。

お店「アメツチ」を始めたことで

飲食業で働く中で、震災をキッカケに「この先の生き方」を立ち止まって考える時間があり、大東に自分たちが通いたいと思えるカフェをつくろうと決めました。雑貨店エフグラースさんの入るビルで開業できたのも良かったです。自分たちが出来ることとチャレンジすることを続けていると、店の良さや可能性などを見つけてくれる人たちとのすてきな出会いがあり、自分たちの成長につながりました。

暮らしや考え方の変化

店を続けて、イベントなどに出店することでより食や健康への意識が高まりました。子育てと重なったこともあり、「生きること」をより実感するようになったと感じています。意識せずに過ごしていると、少しづつ弱っていくので、日々の食や身体のことに目を向ける。そして心も整っていく。そんな感覚を、暮らしながら自然に共有できれば、住道で住む魅力のひとつになるんだろうなと思います。

行政サービスだけでは届かない部分は自分たちで補う



PROFILE 05

安見志保 氏

株式会社コーミン

活動を始めたきっかけは？

大東に来たのは結婚を機に1991年。翌年に子どもが生まれ、23歳で「団地の公園デビュー」を経験しました。そこで、よそ者としての居づらさや母親同士の見えない壁を感じ、同じ思いの人がいるはずだと考え育児サークルを立ち上げました。年功序列や男尊女卑の価値観が根強い時代でしたが、「おかしい」と感じたことをそのままにせず、行動することを選びました。

活動の信念・大事にしていることは？

大切にしてきたのは、行政サービスだけでは届かない部分を自分たちで補うこと。子育て世代が安心して集い、情報を共有できる場づくりから始め、PTAや顔づくり委員会など、まちづくりにも関わってきました。障害のある次男を育てる中で制度と現場のずれを実感し、伝え続けることで理解が少しずつ広がる経験を重ねてきました。その積み重ねが、まちの空気を変えていくと感じています。

今後に向けて

住道では個人商店の減少や空き店舗の増加が進み、チェーン店が増えても地域の豊かさにつながらない現実があります。そこで「ズンチャッチャ夜市」を立ち上げ、住道で挑戦したい人が一歩踏み出せる場をつくりました。安さだけではなく、良いものを大切にする人が集うことで、店や世代を越えたつながりが少しずつ生まれています。



「やってみたい」が芽吹く
まちの土壌を整えていきたい

PROFILE 06

辻村正樹氏
parallel village／ 豊城ウェルハウス（株）

活動をはじめたきっかけは？

大東で生まれ育ちましたが、強い愛着があったわけではありません。住み続けるなら「自分が面白いと思えるまちになったらな」と考えたのが出発点です。大東には気軽に挑戦出来る場が少ないと感じ、野崎参道商店街で料理人、クリエイター、アーティストなどが集えるチャレンジショップを立ち上げました。お店の運営と並行して商店街の活動にも関わるようになりました。

活動を通して、どんな変化がありましたか？

場を運営する中で、個性的な人達が集まる一方、挑戦し続けることはかなり難しいんだなと実感しました。収益面もかなり厳しいですが、商店街には私の活動を応援してくれている人達がいるので、何とか頑張れています。

暮らしの中で感じる、大東・野崎の印象は？

大東は外とのつながりが生まれにくく、新しいことを協働で始めるには心理的ハードルがあります。だからこそ、地元の人と外の人がコミュニケーションを取れる場をつくる意義がありました。野崎には個性あるお店が残っています。新・旧のお店が混ざり合ったら面白い商店街になるなと感じています。

これから、チャレンジしていきたいことは？

クラフトビールを媒体として1次・2次・3次産業をつなぎ、新たな価値を生み出し、大東市にコミットしてくれる人を増やしたい。アートや文化に触れる機会を広げ、子どもたちが「これ、なんだろう？」と考えられる環境もつくりたいです。「やってみたい」が芽吹くまちの土壌を整えていきたいと思っています。



ゼロからは生まれにくい、
こうしたおせっかいな人たちの
関係性こそがまちの財産

PROFILE 07

中村崇明氏・土山純氏
DAITO TIME

活動を始めたきっかけは？

土山 神戸から結婚を機に大東に来た「よそもの」でしたが、この街には土壌やポテンシャルがあると感じていました。例えば、夜に子ども連れでも自然に受け入れられる、店主との距離が近い「昭和なおせっかい」な空気に魅力を感じました。地元の人でも意外と地元の魅力を知らない。当時、大東のお店を紹介する媒体はクーポン中心で、安さは分かっても店主の思いや人となりが伝わるものがなかった。ないなら、自分たちで作ろうと考えました。

活動の信念・大事にしていることは？

中村 DAITO TIMEは、読者や掲載事業者同士が自然につながっていく縁を大切にしています。実際に、掲載者同士で親睦会や共創事業が生まれるなど、既存の団体とは違う、気軽なコミュニティが育ってきました。不揃いな石が積み重なって全体を支える石垣のように、バラバラでもいい、余白があっていい。完璧に整えないことが、このメディアの在り方です。

今後に向けて

部数も時間をかけて増やし、今では大東市の全世帯に届く規模になりました。街と一緒に育ってきた実感があります。大東の魅力は、便利さ以上に「人」にあります。よそものをオープンに受け入れ、困ったときには自然と手を差し伸べる。このおせっかいが、強いセーフティネットとして機能しています。ゼロからは生まれにくい、こうした関係性こそがまちの財産。DAITO TIMEは、この街ならではの豊かな未来を、これからも丁寧に伝えていきたいと思っています。

ビジョンづくりの背景

本市は、産業の集積地であるとともに、大阪都心への近接性、自然豊かな住環境、大規模商業施設や歴史文化といった多様な魅力があり、市域の中には、「働く」「住む」「楽しむ」といった機能がコンパクトに凝縮されており、これらが本市の大きな資源となっています。

近年、社会全体においても職住近接による子育て、家庭の団欒など時間的なゆとりや文化、ショッピング等、生活の『質』を重視した生活を求めるニーズが高くなっていることから、生活を豊かにする大東ならではのプラスαの楽しみを作り出すことがまちづくりを進める上で重要な要素と認識しています。

そこで、大東市立地適正化計画では、「大東で働き、大東に住み、大東で楽しむ、子育てしやすい『職住楽』超近接のまちづくり」を掲げています。その中で、「多くの人が集まり、楽しみ、チャレンジできる環境を創出」をまちづくりの方針の１つと位置づけています。また、同計画では住道駅周辺エリアを、市の中心拠点として、ターゲット層や民間事業者のまちに対する期待値を上げつつ、ポテンシャルの高い公共空間や遊休不動産の活用を促進することで、都市型産業の創出を図るエリアとしています。

まちづくりの方針

大東で働き、大東に住み、大東で楽しむ
子育てしやすい「職住楽」超近接のまちづくり

職

基盤産業を守り、新たな産業を育てる環境を創出

企業の集積メリットを活かした職住近接の実現

住

ココロもカラダも幸せに暮らせる住環境を創出

子育て世代の定住促進

楽

多くの人が集まり、楽しみ、チャレンジできる環境を創出

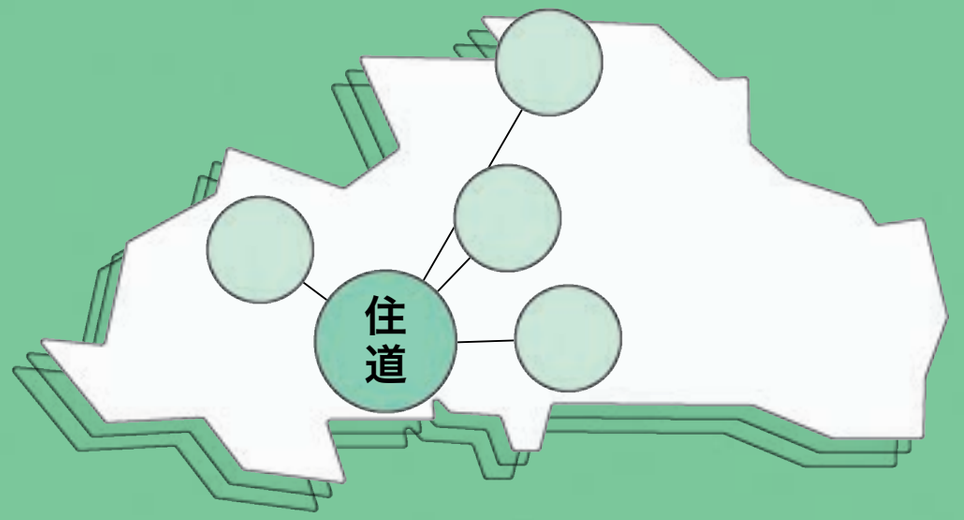
公共空間、遊休不動産を活用したにぎわい創出

大東市立地適正化計画より引用

住道駅周辺からはじめよう

住道駅周辺は、駅前にデッキや末広公園の公共空間が広がり、市役所や図書館・ホール等の公共施設、病院・福祉・商業施設などがエリアに集積し、また市民まつりなどの大規模行事の開催拠点として地域の象徴的なエリアとなっています。

しかし、公共空間を含め空家や空き店舗、身近に自然を感じられる場所、人が集まる環境といった「今ある資源」を最大限に活用しきれいている状況ではありません。そんな眠ったままの力の可能性を掘り起こし住道駅周辺エリアから魅力向上を図ることで、周辺エリアへの波及・連携をめざします。



ビジョンとまちづくり

これまでも、民間主導の小さなチャレンジから始まった取り組みが、まちの期待値を高め、今では大東市における豊かな生活の一端を担うまでに成長してきたものもあります。今後さらに住道駅周辺で、自分なりの第一歩を踏み出しチャレンジしていく人や、それを応援する人などが増えていくことをめざし、これまでの実践者を中心とする住道駅周辺エリアプラットフォームの委員で、今後のビジョンと具体的な実践プロジェクトを「住道駅周辺エリア未来ビジョン」として整理します。

このビジョンは、従来の枠にとらわれない視点と、民間主導ならではの発想が盛り込まれています。ビジョン及び住道駅周辺エリアプラットフォームの存在は、誰にとっても「きっかけ」となるものです。知るきっかけ、一歩踏み出すきっかけ、集まるきっかけ、関わるきっかけ等の様々な「きっかけ」を創出していきます。「きっかけ」を増やし、未来を一緒に描く人を増やし、まちを彩るプロジェクトを増やし、官民が連携して生活を豊かにする大東ならではの魅力的なまちづくりを進めていきます。

住道みらいデザイン会議レポート

About

住道みらいデザイン会議とは

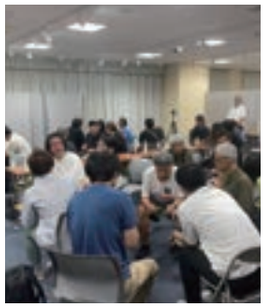
市では、JR住道駅周辺をまちの中心拠点と位置づけ、その立地や可能性を活かしながら、日常のなかで大小さまざまな挑戦がそれぞれの色を持って現れる未来をめざしています。このエリアがもっと面白く育っていくためには、市民の皆さんが主役となり、「ここならではの価値」を一緒につくっていくことが大切です。そこで本市では、民間・地域の人々が出会い、意見やアイデアを交わしながら「エリアプラットフォーム」を立ち上げ、「何がやってみたいか」という思いを後押しする住道の未来ビジョンを検討してきました。

第1回 住道みらいデザイン会議

日 時　2025年7月22日（火）18:30〜20:30
場 所　大東市立生涯学習センターアクロス 3階市民ギャラリーA
テーマ　住道の魅力とこれから
講 演　まちを引き継ぐ（土田由里さん）



前半では、姫路の旧市場内にあった荒物屋「蒲田商店」を引き継ぎ、三代目店主となられた土田由里さんをお招きし、基調講演を実施。「旧市のきさき朝市」など姫路旧市場の魅力を継承する取り組みについてお話しいただき、エリアらしさをビジョンにどう落とし込み、それが実際のエリアの変化にどう繋がっていったかを学ぶ機会になりました。後半は住道らしさについて意見交換を行い、多様なチャレンジを受け入れる土壌があること、駅前の充実したコンテンツや自然の近さ、人懐っこい人の多さなどが、住道ならではの魅力として挙げられました。



第2回 住道みらいデザイン会議

日 時　2025年11月20日（木）18:30〜20:00
場 所　大東市立生涯学習センターアクロス 3階市民ギャラリーA
テーマ　住道のつくりたい景色を妄想してみる



前半では、モデレーターを務める（株）リノベリングの水上よりこれまでの議論の変遷を振り返りながら、今後の取り組みの方向性となる住道の未来ビジョン（案）が共有されました。後半は「住道らしさ」や「自分の色」を大切にしながら、多彩な価値観や取り組みを受け入れる土壌のある住道だからこそやってみたいことや、つくっていきたい日常のシーンについて意見交換を行い、参加者それぞれの思いや視点を持ち寄りながら、住道への多様な関わり方や可能性を具体的に描く機会となりました。



会議議事録

住道みらいデザイン会議 シンポジウム

日 時　2026年2月9日（月）18:00-20:00
場 所　ポップタウン住道 オペラパーク1階 プラザフェスタ

講師　西村 浩さん

講演タイトル　縮退時代を楽しむための、新しいまちづくり実践論

ポップタウン住道オペラパークにて、「住道みらいデザイン会議 シンポジウム」を開催しました。本イベントは、住道エリアのこれからのまちづくりの方向性を共有し、市民とともに住道のこれからについて考える場として設けたものです。

前半では住道の歴史的背景や現状のデータを報告し、策定を進めてきた「住道駅周辺エリア未来ビジョン」に描かれるビジョンや取り組み等の具体的な内容について発表しました。

続く後半では、全国でエリアリノベーションを手掛ける建築家の西村浩さんにより基調講演を実施。西村さんは、人口減少時代においては昔のような右肩上がりの活性化を求めるのではなく、自分たちが幸せに暮らせるまちを自らつくりだす「やる人」になることが不可欠だと語りました。また、広範囲を一度に変えるのではなく、狭いエリアに人を集めて熱量を高め、周辺へ波及させる手法の有効性について解説いただきました。

最後のトークセッションでは、実践者のビジョンへの思いや、次世代の子どもたちに楽しそうに活動する大人の背中を見せる意義が語られました。全体を通して、アイデアをアイデアのまま終わらせず「住道駅周辺エリアプラットフォーム」を活用しながら、市民一人ひとりが実行に移すことの重要性が共有される時間となりました。

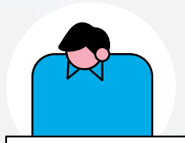




Conclusion おわりに

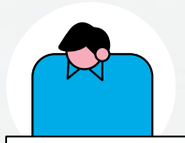
委員からのコメント

委員の皆さんからコメントをいただきました。



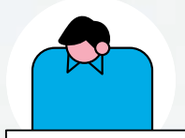
大川創業株式会社
松本 吉章

エリアプラットフォームは、様々な主体が孤立することなく共創していくことが理想です。地域みんなの心の内にあるストーリーを顕在化して、実現させていきましょう！オペラパークを皆さんのステージとして、これからも応援してまいります。



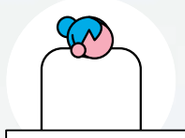
西日本旅客鉄道株式会社
濵田 真太郎

住道というキャンバスに、みんなが自分らしい一歩を踏み出し、個性を活かし応援し合う。その先に、これから住道がますます面白く色鮮やかになっていく未来が想像できて、ワクワクしています！JR西日本も小さな一歩を踏み出します。



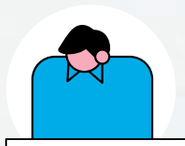
一般社団法人
大東青年会議所
富松 裕貴

本取組においては様々な観点をもった委員が意見を出し合い、前向きなまちづくりのアイディアが創出できたと思います。ざっくりとしたアイディアのどれから始めるか、優先順位を付けてまずスタートしてみる。そんなスピード感を持ったビジョン推進になればいいと思っています。



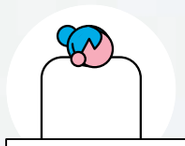
大東商工会議所
住川 奈美

大東市で起業して、大東市に育ててもらった。未来ビジョンに参加させてもらって、今度は私が大東に夢の花を植えていきたくなった。花束出来るくらい💐。



大阪産業大学 工学部
建築・環境デザイン学科
教授 川口 将武

大東のキャンバスに描くのは、このまちに暮らす私たち自身。想いを重ね、色をにじませながら、一人ひとりの工夫やつながり、小さな試みが、新たな風景を描いていきます。その一筆を、皆さんと一緒に重ねていきましょう。



株式会社リノベリング
水上 幸子

みなさんのイロとりどりの「本気」に触れて、大東住道の未来が明るく見えました。これから住道駅周辺エリアプラットフォームのメンバーが増え、未来がどんどん形作られる場面にご一緒できるのが、とても楽しみです。

エリアプラットフォームやリノベーションまちづくりに
関心がある方、何かやってみたい方は下記にご連絡ください

ご連絡窓口
大東市都市経営部都市政策課
072-870-0483（直通）
juto@city.daito.lg.jp

住道駅周辺エリア未来ビジョン
ワカモノ ヨソモノ カブキモノ

制　作｜住道駅周辺エリアプラットフォーム
協　力｜(株)リノベリング
デザイン｜パンダ合同会社